

# 魔法のふでばこプロジェクト 成果報告

長野県長野盲学校

「いつでもどこでもiPad」

「iPadで交流」

- ・ 宿泊学習やそりスキー教室のときに、iPadで撮った写真にコメントを付け、メールで送信。

7月20日 12:55

＜上越市立水族館＞

※お土産を選ぶ写真を送信。



7月20日 13:04

＜上越市立水族館＞

「おみやげ買いました。

シールとキーホルダーを買いました。

A子」

※お土産購入の写真を送信





7月20日 13:20

＜上越市立水族館＞

「ヒトデをさわりました。固くてビックリしました。B子」



7月20日 14:20

＜上越市谷浜海水浴場＞

※海水浴の写真を送信

7月20日 16:55

＜谷浜海水浴場 民宿内＞

「海の水がしょっぱかったです。  
お風呂から上がってドキドキアンパンチをしています。  
A子」

7月21日 7:56

＜民宿にて＞

「おはようございます。  
砂浜で貝を拾いました。  
A子」

7月21日 12:38

＜上越市屋内プール＞

「お昼食べ終わりました。  
これからバスに乗っていきます。  
予定では駅でアイス食べます。  
A子」



1月17日 13:17

## <そりスキー教室>

「あけましておめでとう。私は今、スキー場へ来ています。スキーをやりました。リフトに2回乗りました。3回転びました。でもスピードが出ておもしろいです。じゃあ、また遊ぼうね。

長野盲学校0年 B子

飯綱リゾートスキー場にて」

※スキー場では電波状態が悪かったため、音声入力アプリを使った入力ができなかった。送信は、見通しの良い屋外へ行き何とか送ることができた。居住地校の友達へ、初めて挑戦したスキーの様子を伝えられ、満足そうだった。





○メール担当は、小学部の児童2名。全盲と弱視。

全盲の児童は、聞き取りながら、職員が入力。音声入力アプリでは、誤変換が多かったが楽しみながら練習した。今後は、音声入力アプリの練習を重ねると共に、将来的にはブルートゥースのキーボードでのブラインドタッチも習得できるとよい。

弱視の児童は、画面のキーボードで直接入力した。パソコンのキーボードでは、平仮名の刻印が小さいため目的のキーを探すのに時間がかかっていたが、iPadでは、ソフトウェアキーボードの文字表示が大きいので、パソコンよりも入力がとてもスムーズだった。基本の表示が大きいこと、画面のタッチ等により簡単に表示を大きくできることは弱視児童にとってとてもありがたい。



○盲学校へ送ったメールは、教頭先生に、返信や、職員室等へ掲示等の対応を依頼した。自分のメールへの返信をその場で確認したり、学校へ戻った後、先生達からメールの感想等を聞いたりして、とても喜んでいた。

○盲学校への送信の他に、地元の居住地校へも、写真を添付して、楽しかったことを送信できた。これをきっかけに、日常的な交流にも広げていきたい。





